

序

この度、「神奈川県立図書館紀要」を第13号として2年ぶりに刊行することができました。

「県立図書館」と「川崎図書館」は、数年前から、そのあり方が課題となっていました。この2年の間に両館とも将来像の検討が進み、平成29年度は具体化に向けた取組みが始まっています。こうした大きな節目を迎えた中で紀要を皆様にお届けできることは、大変感慨深いものがあります。

「県立図書館」については、現在の専門的、広域的機能を基本に、新たに「価値を創造する図書館」、「魅せる図書館」を目指すべき図書館像として位置づけ、現在の紅葉坂の地に新棟を建設するとともに、併せて現本館・新館についても、順次、再整備していく予定です。

このうち本館は、ル・コルビュジエの弟子である前川國男が手掛け、近代建築として高く評価されていることから、現在の意匠を活かし建物の魅力を引き出す改修を行うため、平成29年度から先行的な調査を行っております。

また、「県立図書館」の立地する紅葉坂一帯は、「県立青少年センター」、「県立音楽堂」など文化芸術施設が集積し、その活性化も課題となっています。そうした点も視野に入れながら、「県立図書館」の再整備について、引き続き、検討、取組みを進めてまいります。

「川崎図書館」は、これまでも技術・工学系の図書館として多くの方々に評価をいただけてきましたが、その実績を基盤に「ものづくり技術を支える機能」に特化した図書館として、川崎市高津区の「かながわサイエンスパーク (KSP)」内に移転し、今年の5月中旬、機能や装いを新たにオープンいたします。

移転後は、閲覧・貸出・レファレンスといった基本的機能を、引き続き、しっかり果たすとともに、電子ジャーナルなどのデジタル情報の提供、知的財産に関する相談や情報の充実、産業団体等と連携した講座などに力を入れてまいります。

「県立の二つの図書館」が、このような新たな方向を着実に実現し、社会の動きや県民の皆様のニーズの変化に的確に対応していくには、図書館の職員一

人ひとりが、社会全体を見据えた視点から課題意識を持つとともに、日常業務の中でも不断の研鑽に努め、専門性を高めていくことが不可欠であります。職員一同、こうした気持ちで日夜職務に取り組んでおります。

今回の紀要においても、「広報戦略」や「大学と連携した生涯学習」といった幅広い観点からのもの、また、資料の「収集、保存、分析・紹介」などの図書館業務に立脚した専門的なものを、論文、報告という形でまとめました。

日頃の研究や研鑽の成果を、多くの方々にご一読いただければ幸いです。

併せて、「県立の二つの図書館」、そして職員に対する引き続きのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

平成30年2月

神奈川県立図書館・神奈川県立川崎図書館
館長 井出 康夫